

あおり藍、ヒトコロナウイルスを不活化！弘前大研究

弘前大学（青森県弘前市）は12日、青森県特産の染料「あおり藍」の葉エキスが、新型コロナウイルスと同じグループであるヒトコロナウイルスを不活化することが分かったと発表した。研究に当たった大学院医学研究科の中根明夫特任教授は「新型コロナにも同様の効果が期待でき、感染予防に貢献できる」と述べた。

あおり藍葉エキスを使った消臭・抗菌スプレーなどの商品群「あおり藍」葉エキスはインフルエンザウイルスを

不活化することが弘前大と東北医科薬科大学などの共同研究で確認されている。研究は、新型コロナウイルスと同じグループに分類されるヒトコロナウイルス OC43 をヒトの細胞に感染させて実験した。あおり藍葉エキスの抗インフル効果を確認したときと同濃度の溶液（エキスを1000倍に希釈）で処理した感染細胞はほとんどウイルスが不活化した。

あおり藍は青森藍産業協同組合（青森市）が県内で年間約1トンを農薬を使わずに生産。人体に対して安全性が高く、除菌・消毒アルコールに弱い人に使いやすいという。染料に使うほか、抗菌性に着目した消臭・抗菌スプレー、せっけんなどの原材料として活用されている。



あおり藍にコロナウイルス増殖阻害効果 弘前大が発表、

河北新報
ONLINE NEWS

感染予防に効果的！！

2021年03月12日



高い抗菌性で知られる青森県産の染料「あおり藍」が、新型コロナウイルスと同じグループに属するヒトコロナウイルスの増殖を阻む効果を持つことが分かった。弘前大が12日、明らかにした。

コロナ禍で、あおり藍のエキスを含んだマスクや除菌スプレーが注目される中、感染予防の有効性が裏打ちされた。

あおり藍は「あおり藍産業協同組合」（青森市）が無農薬で栽培。化学薬品を使わず抽出したエキスに、高い

抗菌・消臭効果があるとされる。弘前大などの研究グループは昨年1月、あおり藍にA型インフルエンザウイルスの増殖を防ぐ効果が確認されたと発表していた。

昨年10月から続けていた実験では、ヒトコロナウイルスとあおり藍のエキスを混ぜて感染させた細胞と、ウイルスだけを与えた細胞を14日間培養してウイルス量を比較。エキスを加えた細胞は、99%以上のウイルスを不活性化する効果が認められた。

天然由来のあおり藍は、アルコールや次亜塩素酸と比べ、肌荒れなどを防ぐ安全性の高さが売り。皮膚の弱い幼児や高齢者も安心して使えるメリットがあるという。

弘前大学病院の中根明夫弘前大名誉教授（微生物学）は「研究結果が日常生活や医療現場で活用され、新型コロナの収束に少しでも役に立つことを願っている」と話した。